



Softube

ユーザーマニュアル
Tube-Tech ME 1B

Softube ユーザーマニュアル

© 2007-2013. Amp Room は、Softube AB, Sweden の登録商標です。Softube は、Softube AB, Sweden の登録商標です。Valley People Dyna-mite、Trident A-Range、Tonelux、Tilt への視覚と聴覚へのリファレンスは、PMI Audio から書面による許諾を得て使用されている登録商標です。Tonelux、Tilt logo、Valley People、Dyna-mite に関連するロゴ、Trident、A-Range、Triangle のゴロはライセンスに基いて使用されている PMI Audio Group の商標です。Tube-Tech は、Lydkraft ApS, Denmark の登録商標です。すべての仕様は予告なく変更することがあります。無断複写、転載を禁じます。

その他の会社名、および本書に記載されている商品名は、各社の商標、及び登録商標です。他社製品に関する記載は、情報提供のみを目的としており、保証、推奨するものではありません。Softube は、これら製品のパフォーマンス、または使用に関して一切の責任を負いません。

Softube 製品は、特許 SE526523、SE525332、関連する特許/特許 WO06054943、US11/667360、US20040258250、EP1492081、EP1815459、JP2004183976 によって保護されています。

ユーザーへのソフトウェアへの権利は付属のソフトウェア使用許諾契約書(EULA)に準拠します。

免責事項

あらゆる努力は、このマニュアルに記載されている情報が正確であることを確認するために行われました。しかし、我々はミスを行っている可能性があり、我々も人間であるということをご理解いただけますと幸いです。ミスを発見した場合、我々にお知らせください。マニュアルの後のバージョンで修正します。

サポート

Softube のウェブサイト上 (www.softube.com)では、よくある質問(FAQ)や、様々な他のトピックへの答えを見るけることができます。

サポート的な質問は、<http://www.softube.com> にポストしてください。

我々は出来るだけ速やかにお答えします。Web: www.softube.com

E-mail: info@softube.com

Phone: +46 13 21 1623 (9 am - 5 pm CET)

もくじ

1	ユーザーインターフェイス	5
	メニュー	5
	キーコマンド	6

2	<i>Tube-Tech ME 1B Midrange Equalizer</i>	7
	はじめに	7
	ユーザーインターフェイス	8
	フィルター・グラフ	10
	推奨事項	10
	クレジット	10

1 ユーザーインターフェイス

Softube プラグインは、“見たそのまま”の製品です。素早く、効率的に操作できるよう直感的に数分以内に使い方を覚えることができます。メニューのような Softube のすべてのプラグインで同じような部分がありますが、それについてはこの章で説明します。プラグインの特定の詳細な情報に関しては、それぞれの章を参照してください。

メニュー

プラグインインターフェイスの下部には、いくつかのボタンと細い黒い列があります。ここでは例として、Dyna-mite プラグインを使用しますが、他のプラグインでも同様です。

About Box: “About”ボックスを開き、バージョン情報を表示します。

Value Display: マウスがコントロールしているノブの値を表示します。

Enable: プラグインをアクティブにします。off にするとバイパスします。

Setup: プラグイン全体の設定を変更する場合にはグローバル・オプションを使用します。



Enable

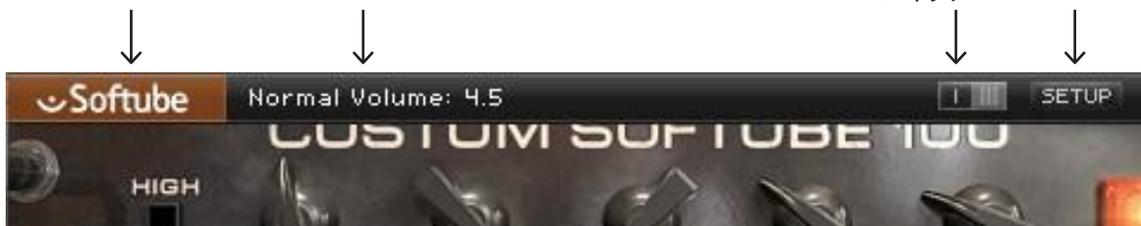
Enable スイッチがオンになっている場合 (i)、プラグインはアクティブになり、オーディオ処理がなされます。オフ (0) にするとバイパスされ、オーディオ処理されません。バイパス時の CPU 消費率はかなり少なくなります。

“About”ボックス

バリューディスプレイ

Enable
スイッチ

セットアップ



セットアップ

セットアップウィンドウでは、プラグインの特定のインスタンスに影響を与える設定を行います。例えば、Bass Amp Room で “Show Value Display” オプションの選択を解除した場合、プラグインは再びそのオプションを選択するまでシステム上のすべての Bass Amp Room のバリューディスプレイはオフになります。

Windows と Mac の間では、異なるオプションに変わっている場合があります。また異なるフォーマットやプラグインでも同様です。一般的なオプションは以下の通りです。:

Show Value Display: プラグインの下の列でパラメーターと値の表示を有効にします。

Reverse Mouse Wheel Direction: (Mac OS のみ) マウスホイールの上下によってノブを動かす際の動作を変更することができます。(Mac OS のみ)

変更を有効にするには、ホストアプリ(DAW)を再起動する必要があります。

もし、何かを台無しにしてマニュアルでこのオプションを設定する必要がある場合は、下記の場所にテキスト形式でそれらを見つけることができます。:

Mac OS: ~/Library/ApplicationSupport/ Softube

Windows: username¥Application Data¥

キーコマンド

プラグイン内のすべてのナンバーとラベルはクリックすることができます。これは簡単に希望する値を入力、設定することができます。ラベルの上にマウスを乗せると指差し型のポインターに変更されます。

マウス

アップ/ダウン、またはマウスホイール

ノブやスイッチのパラメーター変更方法を選択

キーボード

ファインアジャスト ⌘ (Mac)、Ctrl (Win)

パラメーターの値を微調整する場合に使用

パラメーターをリセット

Alt キーを押しながら、ノブやフェーダーをクリックするとデフォルト値にリセットされます。

プラグインの特定のキー・コマンド

多くのプラグインでは、いくつかの追加機能を得るために Shift スイッチを押しながらノブやスイッチをクリックします。

Metal Amp Room

Shift + クリックしながらマイクをドラッグすると両方のマイクを動かすことができます。

すべての Amp Rooms

Shift を押しながらキャビネット(またはアンプ)のバックグラウンドをクリックするとアニメーション無しで変更することが可能です。

2 Tube-Tech ME 1B Midrange Equalizer

はじめに

“別の EQ が必要になるのはなぜ？”これは、新しい疑問ではありません。しかし、何らかの理由で Pultec デザインのイコライザーは、数十年間人気を得ています。オリジナルの Pultecs は、50 年代に開発され、Tube-Tech は、80 年代以降 Pultec のクローンを発売してきました。最初の Pultec による、トランジスタ、オペアンプ、回路基板の設計、パラメトリック設計、トータルリコール、など多くの革命的な機能を搭載しています。

しかし、それでもいくつかの理由により Pultec のキャラクターは世界中のスタジオで必要とされています。

それでも別の EQ が必要ですか？ Tube-Tech ME 1B にも独特な機能があります。しかし、最大の魅力は、ほぼどのような設定で使用しても良いサウンドが得られるよう設計されていることです。それが誰もが Pultec スタイルのイコライザーを必要とする理由の一つです。

ME 1B について

PE 1C Pultec イコライザーと同じように、パッシブ、チューブ・ベースのイコライザーです。これは PE 1C イコライザーと同じように動作するように設計されており、調整していない周波数のコントロールを提供します。どのようなオーディオ素材のミッドレンジを調整するためにも素晴らしいツールであり



PE 1C と一緒に使用するととても用途が広く、完璧なイコライザーになります。

PE 1C は“プログラマブル・イコライザー”で、シェルビング・フィルターとミッドレンジのブーストです。これは中域を減衰させることができず、高域と低域のベルタイプ・フィルターを適用する能力がありません。ME 1B は、3 バンドのイコライザーを提供し、これらすべての欠点を解決します。低域ブースト(200~1000Hz)、全域スイープ・カット(200~7000Hz)、高域ブースト(1.5~5kHz)これらを一緒に使用すると最強です。

ユーザーインターフェイス

ME 1B のユーザーインターフェイスはとてもシンプルです。ローフリークエンシー・ピーク、ミッドフリークエンシー・ディップ、ハイフリークエンシー・ピークの 3 つの異なるセクションを備えています。混乱を招くことはミッド・セクションはブーストすることがなく、つねに選択した周波数を減衰させます。他の 2 つのハイ/ロー・フリークエンシーセクションは、指定した周波数をブーストします。しかし、PE 1C と同時に使用することでこれらのセクションについて PE 1C が補完することができます。

これらコントロールに加えてアウトプット・ゲインを備えています。この機能はオリジナル・ハードウェアにはありませんが、プラグインには有効な機能であると言えます。



Low Frequency セクション

Low Frequency セクションは、スイープ可能なベルタイプのピークフィルターとゲインノブによって構成されています。

Low Frequency ピーク・フィルターの中心周波数を設定します。周波数の設定は、選択式で 200Hz、300Hz、500 Hz、700 Hz、1 kHz です。これらすべての中心周波数は、**Mid Frequency** と重複します。

Low Peak 右側のノブは、ピークフィルターのゲイン量を設定します。0~10dB まで調整可能です。

Mid Frequency セクション

Mid frequency セクションは、スイープ可能で減衰ベルタイプのフィルターとゲインノブによって構成されています。ゲインを 10 に設定するとミッド・フィルターから完全な(約-10dB)減衰を行います。

Mid Frequency ディップフィルターの中心周波数を設定します。周波数の設定は、選択式で 200、300、500、700、1000 Hz (low frequency セクションと重複)、1.5、2、3、4、5 kHz (high frequency セクションと重複)、最後に 7 kHz です。

Mid Dip 選択した周波数の減衰量を設定します。使用可能なレンジは、0 dB ~ 約-10 dB です。

High Frequency セクション

High frequency セクションは、スィープ可能なベルタイプのピークフィルターとゲインノブによって構成されています。

High Frequency ピークフィルターの中心周波数を設定します。周波数の設定は、選択式で 1.5、2、3、4、5 kHz です。

High Peak ピークフィルターのゲイン量を設定します。0~8dB まで調整可能です。正確なゲイン値は、周波数の設定に依存します。

アウトプット・セクション

Output Gain アウトプットゲインは、オリジナルの ME 1B には搭載されていません。バイパスとセッティング A/B を比較する場合、ゲインコントロールは特に便利です。ゲインレンジは、-10 dB ~ +10 dB です。

フィルター・グラフ

異なるゲイン設定用のフィルター曲線の例を表示します。

これらのカーブの正確なシェイプは、以下の3種類とも互いに依存することに注意してください。:

1. 他のノブで設定されている値(相互依存)
2. ピーク、ディップ・フィルターの周波数
3. ME 1B の前にインサートされているアンプのアウトプット・インピーダンス

セッティングをほぼ満たすために、フィルターから少しだけのゲインやリダクションが得られるようにインピーダンスもモデリングすることにしました。ハードウェアの設定と正確に一致させたいのであれば、それらの設定を緩めておくことができます。

推奨事項

最善の方法は、オリジナルのハードウェア Pultec Midrange EQ のできるだけ近いサウンドを ME 1B で得ることです。彼らは偉大な機材を造りました。Tube-Tech を借りて使う度にそれを実感し、持ち続けたいと思うでしょう。

クレジット

Niklas Odelholm – modeling, Arvid Rosén – modeling, Torsten Gatu – framework programming, Oscar Öberg – framework programming, Ulf Ekelöf – 3D rendering. Original hardware was designed by John G. Petersen at Tube-Tech/Lyd-kraft ApS, Denmark.

TUBE-TECH は、LYDKRAFT ApS, DENMARK の商標で、許諾を得て使用しています。すべての仕様は予告なく変更されることがあります。すべての著作権を保有しています。

